

昭和三十一年三月招集

第一回市議会定例会会議録

昭和三十一年三月十三日午前十一時 館山市議会第一回定例会
 出席議員数 三十一名 各々の氏名 左の如し
 出席議員数 三十一名 各々の氏名 左の如し

二九番	二七番	二五番	二三番	二二番	一九番	一七番	一五番	一三番	一一番	九番	七番	五番	三番	一番	可世木芳藏
里川佐太郎	伊勢仙之助	田中忠藏	高橋文治	松本藤太郎	石井平次	鈴木市藏	遠山ヨネ子	鈴木不孝	佐久間為次郎	山口房治	磯辺同雄	秋山万次	福岡保徳	山口井	金木久一
三〇番	二八番	二六番	二四番	二二番	二〇番	一八番	一六番	一四番	一二番	一〇番	八番	六番	四番	二番	小谷無遠
小沢東太郎	山口康	田中稼郎	萩生田七郎	安西政治	中村良五	小沢太助	脇田順一	飯田義男	山本昇	大野清五郎	後藤ゆき	小谷無遠	金木久一	可世木芳藏	小谷無遠

三一番

田村 喜兵衛

三二番

望月 暉作

三三番

吉田 勇次郎

三四番

嶋 豊 壯 作

三五番

小浜 光義

三六番

嶋 田 繁

一欠席議員数なし

本日議事日程左の如し

日程第一

議案第三号

館山市税生収支条例制定について

日程第二

報告第三号

昭和三十年度二月例月検査報告

報告第三号

監査報告（授業料保育料生収状況）

本日の会議の事件は左の如し

報告第二号

昭和三十年度二月例月検査報告

報告第三号

監査報告（授業料保育料生収状況）

議案第三号

館山市税生収支条例制定について

開会 午前十時三十分

議長（石井 繁君）本日の出席議員数三十三名、これより第一回定例会

第三日の会議を開きます。本日の議事は、お手元に配布の日程表により、会議を開き行います。

八番小沢太助君 本日の日程第一 議案第二十号は内容の説明に
ついて改正されたものの印刷をいたしてありますので、これは
変更いたしまして日程第二から議事を進行したいと思っております
よろしくお察しします

議長(石井繁君)お諮り致します

天今十八番議決より日程変更の動議がなされ、議案第二十号に
ついでして改正された部分を税務課におきまして印刷をいたして
ありますので、それが出来るまで、本日の時間がかかりそうですので、日程変更と
いうわけになります。又今日の動議に対して御異議ありませんか

異議 議長なしの声

議長(石井繁君)御異議ないと思っております。よう日程変更は決定
いたしました。

続いて日程第二 報告第二十号及び報告二十三号を一括して報告致します

書記 朗読

報告第二十号 昭和三十一年度二月例月検査報告

報告二十三号 検査報告(授業料、保育料、生収状況)

査査委員(岡武夫君)二月十三日に五人の議員さん方の立合を得まして
臨時出納検査を行いました。結果の報告をいたします。

帳簿類等数字に誤りはないといふ事に入りに

先ず一般会計でございませうが市税におきまして六百五十三万七千

四百五十円の収入でございませう。重なる内訳は市民税が百九十三万

四千五百円、固定資産税が二百十八万五千円、煙草消費税が百九十三万

四千五百円、分が九十三万三千四百七十九円、電気ガス税が百三十九万四千

五百三十九円、税外支入の五百三十三万四千四百三十九円の内訳は国庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支金金庫支

尚市税の支入にあきまりて欠損額がこゝに百八十七万四千二百四十三圓
出ておりますが、一月末が百六十四万八千四百四十三圓でありましたので
この一月中に七十九万四千四百四十三圓増加したことになります。
収入未済額は六千八百九十七万六千六百十三圓の数字になって
おりますが、前期の未払いものを差引きますと正味滞納額は
約五千万七千五百日とあります。

次に特別会計に移ります。公益貸付金でございす。バ収入の補
一番のついで石のついで一時借入金と三角で三千万日。この月に三千万日
減っておりますが、これは由良房農協に返済した分でございます。

一時借入金の現在額は五千万日は、目下から借入に合ひてございす。
次に國民健康保険であります。この表により、印前承継の件は、
次に報告第三号であります。二月二十五日から十七日まで、本市の
授業料保育料の支収状況と並査いたしました。帳簿に
ついて調査いたしました。にか、坐收金が、市金庫に入金されて
ます。額は符合してあります。たが

に、調理事務が完全に行われております。一
幼稚園、高等小学校につきましても、その強んどが、毎月末に調定
されてあります。る、でございす。

保育園の保育料に至りましては市の支出法へ収入
便宜的処置がなされていゝうみで正式な調定事務が行な
れておりませんでいゝ。

遺憾なことでございましてそれ以後は注意を払つておるまいに
授業料保育料の生収状況は別表の通りであります。

ニニ番、高橋文治君 又今監査委員の報告に関連しまして保険課長に
お尋ねしたいと思つてます。

いつも保険のことはいつて再三質問して来ましたが大部は
いゝことを耳にしておりますが繰越滞納の三百四十万圓は
前回の市会におきまして私は一目も早く更正を求めたので
いゝけれども時効になつていゝことを申上げたいので
あります。

その際保険課長は保険税であるから時効になる額は少額である
云われましてだが私はいゝゆる金庫角度から考えますと事項になる
額は相当な額にのぼり将来収入の見込がなく欠損分をいゝは
けいばなうないと思つてあります。保険課長さんは如何に考へて
おるのかあ聞かせたいと思つてます。

保険課長(宮川爲三郎) 只今の御質問にお答へ申上げます。

度々御指摘も受けまして課にいたしますとは十分調査いたしまして
それで手続をすべしものはいて全部処置いたしてある次第でございます。
只今の御質問のいわゆる事務効にはなつたものあるいは当然時効は時効に
なるだろうという数字でございますがそれをも申上げますと二十八年度の
合併の時に二十八年度以前の分といひまして引継いだ額は二百
五十三万三千六十五円でございます。

当時保険の方は合併の直前 四月二十七日に各町村の主任者のお集りを
頼いましてそして保険の方も一般と同様によつて統合して運営するといふ
ことがたつたという議論を得まして各地区におきまして保険の方の
事務を致したようは次第でございます。引継ぎ当初には各年度別の
内容的なものが良く分りませんで課の方で全部を年度別に調査
いたしましてその間相当の期間を用いたつてございます。

その右引継後に納入したものは二十八年度内に入りてありますので
現在の引継分の繰上納額は二百三十一万八千九百九十九円と
ございす。

すでに合併の時に事務になつたものを引継いでいます。たものも
ございす。その金額が四十八万八千九百二十四円それから合併後

先程申し上げました容約の調査中、時効期間の到来に
ものが七万三千五百八十五円あり、また時効になら
ないものが
差引百六十五万九千九百六十九円という数字で
ございます

調査中事務の不手際から、^{二二}二二年度に時効を出し、^{二二}二二年度に
誠に申訳ないと思入っております

尚この事項のものを引継ぎます。これは主として二二四年度
二二五年度、二二六年度のある地区の一部分、これが保険料で
ございまして、^{二二}二二年度の時効期間に達してあるものでござい
ます

その他のものは大体二二七年度からある地区を除いた以外全部
保険料でございまして、^{二二}二二年度の時効を突いたままに次第でござい
ます。又今申し上げました数字によりまして、^{二二}二二年度に承継したものと
もございまして、

三番、富橋大蔵君、それでは時効になつて気がする。引継いだものが四十八万
です。これは私は考えます。四十八万の集時効ということとは納得出
来

ますが、時効になつたものと引継いだことは絶対納得出来ないので
あります。なぜならば市に合併いたします時は、市では特別財政

審査委員会を組織されまして、二二四番議員が委員長になり
細密に調査されております。尚合併当時の責任者は何国と

細部にわたって調査されておりますその点からいまして私は
時効になつたものを引継ぎということとは納得出来ないのであります
又今の課長の答弁はその場外での答弁であり
答弁であると思つてはとては誤謬は誤謬を
私は思ひます 剣

三 査高橋文治君 重ねて申上げますが合併いたしました大々村の市民は
この保険料につきましてはすこぶる重要の要としてあるの
あります。ところが合併いたしました三十一年度、三十九年度の
保険料と比較しますと、非増にもならず人により三倍にもなつて
おるのではありません。

高橋越 湯郷町の三百十八万の総額につきましては併に関心も
もつてゐるのであります。併に九重地区にあつては合併に
対してしてせめても納税成績は百%で合併したいとすいふ人
も幾人かあるとて、無理な要求を断行してはよくないで
ありましてこの問題に對して関心を併に持つてゐるからお尋ねする
わけがあります。

先だつての答弁では保険料税だから時効はないといふことでは
四十八万といふと相当多い額ですがこれは見込みがなく欠損処分を

し居ければならぬと解していいです。

保険課長(宮川為三郎君) この四十八万円は全部保険料でござります。

そしてこれにつきましては他のとは違ひましてこの中には保険の給付も

受けております。因係上で催促しましてお来るだけ納付していただいと

考へております。

三番(高橋文治君) これは収入の見送しはあると解していいですか。

保険課長(宮川為三郎君) 全部は不可能と考へますが幾分でも世間的

にいいと思ふことが私の考へです。

三番(高橋文治君) 市税と違ひましてそれはよろしいやうにございまいやうか。

先程申上げました通り非常に関心をもつておりますので収入の

見込みのないものは速急に落して早急に整備するものは整備して

いただくまいと思ひます。

尚就いて市長本人に高橋の私見を申上げたいと思ひます。これは

事務的にわかりまして甚だ僭越でございしますが、館山市の國保の

保険料は現在保険課においてこれが生収の事務を扱つてあり

ます。現在の積極性の高い保険課長では年度内に整備出来

ないと思ひます。これは市内の税務第二課に条例も改正して

やうて世間的にいいと考へております。

一例を

合併前

その理由を申上げますと九重村政の煩瑣納税者が九人あるにあり
ます。これは納める能力があつても納めなかつたのであります。
私は当時責任者であり、百人と云ふ百%に達してゆきたいと強制処分
手続をせすに努力したのであります。けれども、合併したとき、
なかつたので、~~合併後~~なく、未整理のまゝ、合併したとき、
昨年この九名に対して催告状を發し、そして税務二課から三名九重に
出張され、その九名と面談して税の重要性を懇々と話され、
のであります。これで納められれば強制処分をすすとはうら
やみであり、であります。さすかたすいさゝ完納したのであります。
この三名の手腕に敬服いたします。先達強制処分を今度は
やるといふことがわかつたのであります。その時保険料はどうするかと
云ふにしても、後の方へ何と云ふない云ふないであります。私は税
務二課の方で頼むところ、百%の効果があつて思ひます。
私見を申上げます。わけていふとあります。

市長田村田力君 ニイニ番議事にお答え申上げます。

消防保険料を税務二課で征收を依頼する方がよろしいという
御意見でございますが、いつの場合にあつても保険料保
険税の普通納税金と、税金と、税金がまだそこまで行つて

つないの感蔵してゆかばりければならぬといふ事
今迄つらく研究されてゐる。主眼は税務三課の
進捗とともあつたと思つてゐる。もう一つは研究
いたしきたつと思つてゐる。

二九番(里)佐太郎君 又今の問題でございすが二十三番議長の御意
見は当市の保険において非常な燃意を拂つてゐる現状にと
私は存じます。

たゞ最後の言葉でございすがこれに對しては又今市長さんが
御説明せられ通り税に對しての感念と保険料の感念が自
差違ふあるといふこと、いろいろ保険課の方でも過渡期であり
ため事務は忙殺され山手収がとかうとんぜられる結果になつた
と思つてゐるので 第二課に移すといふことは甚だ遺憾に
感じたいと存じます。

二番(松本)藤太郎君 一月三十一日現在の収入未済額六千八百九十二万
七千九百一十三円滯納が五千四百七十九万のといふことであ
ります。本年も余計とこの三月月でありすが、これに對して關係課長
五千四百七十九万の滯納があるんですが、今年度を越す時の
方の滯納で越せるか、つ實際課長さんの御答ををお願いします。

税務第二課長山口実君 へ 答へ 申上げます

館山市の過去の滞り状況を見ますと昭和三十九年度約四千五百万
昭和三十八年度で約四千五百万昭和三十九年度で四千四百万といふ
ます。それに本年度は現在五千百五十万の状況からいいますと
五月末まで現在の構構でもうと山土税に馬力をかけますと
恐らく四千万を割かまうは四千五百万台にもうてゆく確信をも
課長は持っております。

二番(松本藤太郎君) 総務課長多()に不同いいますか 前々回二月
七日の市会の際ニテ三番議決と思ひますか その(支内)に付いて三十年度は
三千三百万円を目途に馬力をかけてあるとはうきりと私は答へ舟を
承まつたと思ひますか 四千万円といひますと 大部喰違ひがある
ように思ふがその上矢について不同いいますか

総務課長(戸費局)その当時のお答えと一しましては市長は大抵三千五百万円
目標に、~~それより多い~~税務二課に年収を命じた、こういうふうな
~~お答えしたと~~
思ふます。

二番(伊勢仙之助君) 電気がス税についていありますか、どのよう
に
お全收なさっておりますか 討数的ものは後程でいいます、いま
いしすから 滞納があるかないか 申告について 不申告の処置を

18
取、この例がありますか。どうかお答え願いたいと思っております。

税務第二課長山口実君 御質問の内容にすぎません。主幹課に属する

二課の滞納額に申上げますと、電気ガス税の中、いわゆる東京電力に

属する電気ガス税は完納してございすか。お米会社のこの辺に

おけるガス会社をおさすして、いわゆる税のガス料の未納入の

ために、この循環して完納してあります。

二番 伊勢仙之助君 電気ガス税の申告書について、過少申告と

訂正を加えたことがありますか。

税務第二課長山口実君 その件については主幹の一課の方で

行っておりまうか。

議長 石井潔君 申上げます。一課の課長は先程申上げました通り

市条例の改正された点についての要点をプリントに行っており

ます。あう後刻参ると思ひます。あう了承願ひます。

二番 山本昇君 査査報告に関連して、豊房診療所の問題について

一 お伺い致したいと思ひます。

豊房診療所は開設以来非常に慎重な運営をされて、あう

黒字であるということも南にありまうか。これはいままで豊房診

療所の何と云いますか、盛名が高かった。従って利用者が多かつた

のであります。最近その診療所に入院してある人から
直接の身にしみてのであります。何れが診療所の内部にあって
取組向に於いて変なことがあるので先生に對して信頼感が云々とい
うといふことを聞いております。病は氣からとも云われております。
患者が先生に自分の病氣を直して貰うんだという信頼感を持て
始めて科學療法により病氣も良くなることは一応うなずか
のであります。かような觀念が、かんてんから診療所の
先生、職員に對する不信があるにすると、
對する不信を拂つてもらう場合、あつたに、行つても駄目な
う、感念を拂つた、診療所の利用が減つてくる。又、
面にも影響する人ではないかと考へます。
この点、同じする人ですが、現在豊後診療所の取務規定と
いますか、あるいはそうしたことには、市長はどのよう
考へてありますか。又、右の運営について、どんな方法に
運営してゆきますか。その点、お尋ねしたいと思つます。
市長（田村利男君）事務局長をして答へさせます。
豊後診療所事務局長（富宮謙次君）それだ、ことには對しては
何も申訳ないと思つます。

私共平身は利用者のために万全を盡している考えでございまして、
入院患者と申されまして、現在のところ利用者が少ないので、
そういうことは自分等としてはないと考えております。また、
あ、いうようなことも云われたいとは申収めたいと思つてます。今迄
その汚名をせぐべく万全を盡したいと思つてあります。
尚今のところ、財源等が少ないでございまして、財源も十分確保
する前に内容を第一としてゆきたい。私はこう考えております。
一、二番（山本昇君）又今事務長さんの御答弁にすぎますと、
患者から不信も受けるようなことは意識していいけれども、
十分今後気をつけることも云々という事であります。私は設備も
大切であります。が、精神的にやうて貰いたいと思つてます。
又今事務長さんほうより、たゞこれは意識していい、ということ
あります。が、一つの事実を取上げてみますと、現在先生が二人居
られる。この二人居られる先生で、いづれが上席であるか、
一、二はい、一、二、古くからいる。先任の方があります。が、
来られた方が、学歴を弄して、あつた人ではないかと、
いふようなことも決してない。命令系統に誤りがあり
そこにあつたずと、バカにする。すると、誤りがあり、事務長

そんな所を自身のためを取上げてみようと先生がそういふ人は
診療態度に好する事務長さん自身か何か軽々しくあつて
ある 醫西匠春かほにか一の動をしようとあなにかそれを
に似たている何かバカにしてゐるような態度がやえるといふことを
私は患者自身から聞きとあるのではありません

こういふ事務長さん自身か送者に対して軽々しい気持態度
即ち患者が自身か送者に対して不信の原因になりやすくて
こういふことも私は聞きとあるのではありません事務長さん
自身はそうしたことにはないといふことであるが私の前には
範圍内にははさういふことがあつたといふことである

それについて今后十分氣を付けていなければならぬ
それについて患者自身か送者に対して声下りがないよう
そして絶対の信頼を拂つてやうとしてこの診療所の警備を
来すよう希望する次第であります

九番山口房治君診療所のことについて注意の点か出た人です
診療所には運営委員会が設置してあり人々はこの方面に
ことは聞きとある人が今いふようになってありますか御説明願つたとい
思ひます

16
保険課長(宮川為三郎君)お答え申し上げます。

合併当初には事情によりまして設けました。同の監下で

指摘され、結局、診療所は國保の診療施設である。英から

合併後も折つことは適当ではないという指摘を受けました。現在、は

國保の運営協議会におきまして診療所についても御審議願ひたいと

考えております。

三三番(吉田勇次郎君)只今の件について、保険課長にお尋ねいたしますが、

委員会は一応任命される時通知があり、一応了承していただいたものと

思いますが、私もその内の一人でありましたが、只今九番議決するから

お尋ねの時、私も同感に解任いたしました。その後、何等のこともなく

やつていまして、現在に至りて始めて解散ということを知りました。

私達、始末を何々かと思われ、運営委員会が委嘱されて

おり、また改選もされまい、今まで、一つありておりますが、

これは取柄的の急慢がうと解釈されても、強さはないんでは、ないかと

考えます。そういふことが、改選されたならば、保険課長さんには、

書類を一本でも通知を出さなければ、私のところには不配に

なつたのであります。その上、英をお伺いします。

又、出ることが、本来か、出さないが、本来、本市の主管課長の見解を

有りたいて思ひます

保険課長(宮川為三郎君) 只今の御質問にお答えいたします。

先程の御答弁に言葉が足りませんで申訳ございませう。また解散はいたしてあります。現在任期の中の方は一月の任期満了までお願いする。どうに考えてあります。

三三番(吉田勇次郎君) いらばいものきいってまで引張って置く必要はないと思っております。皆さまの民意を尊重する。又選挙上の査問機関と思っておりますがその上まいか。

議長(石井潔君) 休憩いたします。 午前十一時三十分。

再開いたします。 午前十一時三十分。

税務第一課長(里塚芳雄君) 先程の二丁の番五人からの電気ガスにについて御質問であります。が電気はうきまゝでは現在各市共に千葉市に全部依頼して千葉市が本庁を調査することになつてあります。途中で県下一斉に直接調査してどうだということをして各市ごとに各所調査して四日間調査してそれにすり。現在お答えしてあります。が不正は大体ございませう。ガスの方も些少の誤りにおいては少し延びてあります。が不正はないつもりでございます。

番(伊勢仙之助君) 不正と云いますと言葉は悪いですが申すに
間違ひがあるのでは無いが 申告額を誤ったということは 概ね

スガスの滞納があるという位であるが 后程で結構です
出しているというよりも 伊勢仙之助君 申告額を誤ったと思います

税務第一課長(黒澤芳雄君) 間違ひはないと思います

但し調査も 震災の場合もガスの場合も已成がまたかかっておき
暇がかりますが 以て后も引き続き 臨時的に調査するつもりで
あります 尚 申告書等について 今後共 注意して 調査するよう

いたしております

税務第二課長(山口実彦) お答え致します 二月末の滞納額は五十三万

八千五百六十三円あります 中へ 細かい内訳は后で申し上げます

繰越滞納はございません

三番(伊勢仙之助君) そうしますと 前年度のガスの予算からみて 大部分が

現在滞納にはなっている ところが ことある

税務第二課長(山口実彦) これは滞納額を 整理した関係上 繰越額が

整理され 現年度の分が残っているわけではございません

三番(伊勢仙之助君) 私がこの問題について 特に 申すほどのことは ないが 非常に

それ以上や、たかどうかは知りませんが、教育長の方は独自のものかは分りませんが、委員会の方からお願いする。

教育委員会庶務課長(鶴沢武蔵君)ニ割削以外の予算計には現在のところ金額配当になつてあります。

又ニ割削減の点にどうも全配当を交渉中であつた。ますりか、市財政の關係から今のところ金額配当されてあつた人。一番小沢石助君日程オニ報告第三号第三号につては相当地皆その御意向もあつたようであります。こうへんで意向を打ち切り議事を進行したいと思つてます。

議長(石井潔君)又今午審議会の委員打ち切り。動議が出たので、おこいますかその動議に御異議のあらはれませんか。

議長(石井潔君)それでは御異議ないと思つて、報告第二号第三号はこれを以て終ります。

これを以て午前の会議を終ります。午後は一時再開いたします。その間、昼食を召上つていただきます。

午前十時四十九分。

議長(石井潔君)午後の出席議員三十三名これより午前に引続き会議を

南をします

午後 一時七分

議長(石井繁君) 今次の議事は日程第一議案第二三三号を上程いたします。

○議案の朗読を省略したいと思ひます。お諮りします。お諮りします。お諮りします。

回答 議長の声

議長(石井繁君) それでは御審議なつて認めましてそのように決定いたします。議案第一議案(黒坂芳雄君) 条例につきましては全文朗読を省略します。お諮りします。お諮りします。お諮りします。

大休市税条例は二丁六年八月にある程度改正があります。それによつて現在までやうな考へ方になり、又在中税法の改正で一部改正が重なりまして、たのでこれを整備したい。そして去年の八月改正の条分を訂正いたしました。出来上つたものでございすので、大休従来の条例をそのまゝでございす。改正点はお手元にプリントの二丁六条、三丁四条等の点だけでございす。

二丁六条は従来の税法では市税は申告を原則としてありましたが、それが改正になりまして提出を定めることができる。そういう改正になります。それから三丁四条は市税(率)の制限でございす。

一、二項ある。そうでございす。四丁四条の改正は特別徴収方法が従来の義務づけられてあり

まゝでいたが、今度の改正で義務づけられたと吳でござりまする。

それから固定資産税の課税標準の評価額は、~~課~~三十二年四月二日の

それから六十三条の固定資産税の税率でございます。六十三条が
不課税の範囲が引上げられます。消却固定資産が五十万円以下で、
家屋はつりては一万のものか、切捨てになつてありまうものか、
十万円に
なりまうものか、つりては一万のものか、切捨てになつてありまうものか、
十万円に

大體の改正案はそり大々でいいます

それから、釧路市賦課金収条例と成つてありまして、たのど、自治庁の準則に回す。賦課金収を取りまして、市税条例に成りまして、たのど、おしくみ敷いたいと思ひます。以上、たのど、おひきす。

三番(松本藤太郎君) 固定資産税が前年度より百分の一・六か一・五に
なり。一・下った。ゆけです。がこの評価額をみますと昨年と本年
度の評価額(額)の額からゆきますと土地家屋を合せて一億九千万
法に上ってあるんですが、昨年とどのよう評価の基準が違ったのか
その点も一つ御説明願いたいと思ひます

税務第一課長(里瀬芳雄君) 固定資産税につきましてはいろいろ市の調査で御迷惑をまゐります。この移動には、たゞ大きな事を評価の

方法が違つたと云でござります

それは従来の自治庁でなく評価基準の方法が違つたためともう一つ
いぬゆる全国的に自治庁で一坪当りの評価基準額を定めたのが
前年度より約十四%から十五%程度に上つてあります

尚細い点に及りますが前回の評価方法の内地当の地域差、これが
各個人ごとの宅地の差になつてあります。これがその部落全体の宅地の
等級により地域差額をつけるための原因でござります

個人ごとの評価については大部上り下りがあるように思いますが
大体の相違は、評価基準の基準額の坪当りが上げられたのと
地域差の問題、それから尺今の数字の問題ですが、先程の数字の中
中には家屋の新築増築も含まれてありますので、御承知願いたいと思
ひます

二番(松本藤太郎君)大体分ります。率が一表面では下り、
評価額が上り、ざっと鉛筆計算しても入る金はあまりない
結果が出てくると思ひます

もう一つ市民税にあつては、前年度百分の十三、これが一足飛び
百分の十六といつた、これもいろいろの所得税の改正により
はつたと思ひますが、百分の十六でなくては、財政の線でゆけるものか、

私は考えます。その理由として、昨年度と変わり
ます。が、実際に相違がなかったのではありません。その点について、税務
課長さん、はたして市長さんへは、尋ねたいですか。どうして百分の十で
戻ればいけないんだというふうな点について、御説明願いたいと思つて
市長(田村利男君)お答え致します。

標準は十五でございす。それで今館山でやりまうたのが十六に上った
のでございす。これは片方において引下げ片方において上げると
いうこともございす。が、すむに木更津等赤字克服を目指して
十六のところから十八の最高を取つてある市は、さうであります。

館山市も十六、十八を取りたい意見もあつたのでございす。が、十六で
押えてあげてというよりも、私の命令で十六に留止めたのであります。が、
一上げることにより、幾分でも赤字克服するために上げに付けて
あります。抑う承般いたして思ひます。

三、青小沢重太郎君、今課長さんの方から改正とあの説明があります。たが
この説明を聞くとあります。深いところのなぜ改正したかその根本とあの
説明がなかつたのであります。が、さういうとあの二、三をお尋ねしたいと
思ひます。

またまた、お所得割課税標準は、所得税額とする。これは改正

されていはいと突ですが、度々申上げてあります。が所得税額に課するか、
いろいろ——自営戸でもホーである現況であります。

市民の所得というものも思っています。小はるものは四、五万から可十万の
ものもあり、その内所得税を納付するものだけが市民税を納める
又平等割は四、五万のものもあり、二十万以上の所得のものもある。で
ありまして、この所得割に及びて貰いたいというのを申上げて
あるのもあります。が、調査が困難であるというところで、非
びりうり。

市民税

市民税の負担は義務であります。それには尤も平等賦課が
至当であります。その見解から三三三系は所得税額とするか、
いか、又もうという方法があるか、その点も、こゝで再確認
したい。とたいと考へるものであります。

次に税率問題であります。が、ニテ一番議会の意向にあります。にように
これを年ごとに変えるか、赤字克服のために上げるという答弁が
ありまして、たかもう一つ考へていたこと、これは市民の負担のことも
反面考へていたこと、たいていあります。その点、市長の考へ
御承りしたいと思ひます。

オ三に固定資産税の課税標準が不届であります。良く御見

いたしません。現在従覧税実になつてあります。農家当り
非常に消却程度もう殆んど零に^三いものをその見方が毎
調査の度ごとに廻延が上つてくるが先程松本議事のお話よりように
膨大なる金額が廻るとその^本一だけ引下げた
ような現状であります。赤字克服は先程三十三条の税額の増収と
いうことが考えられるのであります。これはあつて、かかる手をつけない
~~素人は何人か~~ 評議の方によつて素人にはな人と
ごまかせるというふうな弊に家屋の評価によつて非常なる額を
上げた。こういうと失につつて納得ゆかないと失があるのであります。か
こういうと失を是非細かく説明願つたいと思つてあります。
市長田村利男君 各個人所得税を調べることでございすが例へば
富崎とか小さな部落について、已長班長を呼び寄せて
来るわけです。又あるは村時代にやっております。腰ため式の
ものがやれるのでございすが大きな都市にあつては少くも
十以上の市の内の私の記憶が予二市まではやはり現在の所得税による
方法を取つてあるものであります。とうていその調査が腰ためとい
う不確実なもの、非難が起つた場合かえつて答弁に困るという
ことで、館山市として、他市同様所得税による方法を取つてい

次でございよう

務第一課長星燦芳雄君 固定資産税につては個人別の
評価をのみすると大部そういう上へは家屋もございすやが別に
担当事務者としておたふめの評価をいふと思われせん
尚前年度の評価につては合併直前であつたので大体
そのまゝになつてありまうたが本年度は特に評価も一冊評価しな
ければならぬ法律によりまうて細かい表に割当て各個別に調査
いたしまうたところがたま／＼そういうやうな個人的にはござい
ますたかも知れせんが減失率とかそれから尚地域差とかそういう
細かな問題で若し違算でもございすに再審査の道もありますので
その方法を取つていたゞきたいと思ひます

三番 小沢寛太郎君 只今の答弁によりわかりまうたが私が申し上げたことは
個人／＼のことでなく、評価する人のその考え方がすべし評価額を
上げようという気持 例えは百年の家を見るにてもその見方には
専門家が見たとはいうもの、果材がさういふ見方がおまゐること
思ひます 評価額が上つたということは見ると前からもう幾分
増税をせんとする気持があつたやうに見受けらるるのであります
A. B. の見方がどうだということではないのであります

とはかく、私が自分の部落の一部、新築を、家屋は別として、そうではない。従来のもので、ものが二割、から五割も上っている。全体的には評価について、即説明願、たのであります。

税務第一課長(星澄芳雄君)又今のお話ですと調査の前から評価を高くみる予定で調査したというところですが、そういうことは決まっています。尚、そういう問題につきましても、旧村の方から調査を、して、最後に此条の方に来る。たもので、全体の評価がどの位になるかわかりません。新築、増築等については、見当はついており、せんし決まっています。頭で調査は当っておりません。

三〇番小沢忠太郎君(家屋の評価額が、こういう数字の、おた場合現在、改正の税率はもう少し引下げたい、くわけにゆかぬ、み、それに、ついで、大村関係も、考へて、みうすと、三十一年度の、固定資産税の税額、三十九年度の、二倍に近い、地域も、生じて来たので、あり、みうすが、その、村、あ、の、く、に、応じて、や、つた、もの、で、その、増、違、いは、当然、で、あり、みうすが、更に、昭和三十一年度は、現在の、評価額、から、ゆ、き、み、う、すと、税額、が、ゆ、き、こ、と、が、予、想、さ、れる、ので、あり、み、う、す、が、こ、う、い、う、と、又、から、ゆ、て、百、分、の、一、大、と、一、五、に、引、下、げ、た、よ、う、で、あり、み、う、す、が、更、に、こ、れ、を、引、下、げ、る、こ、と、は、お、来、ない、か、こ、う、い、う、と、又、を、お、伺、い、たい、と、思、い、み、う、す。

税務第一課長(黒瀬芳雄君) 只今の御説御尤もでございます。

上の方めらうも資産課税はなるべく率を下げるよう指おもありまうて
ですが又一方いわける赤字団体といたしまして現在の率より下げますと
いうく市の運営にも差支えます。尚交付税関係とありますあ
大体前年度固定資産税の率の問題で議ありまうたにが議会で
の、一引下げで、こういう市会に提案もしたより下げて決議したことが
ございましてこれに対する上の見解といたしましてはこれは才入の努力を
劣るものもある(団体であるという意味の言葉を漏したことがあり
ます)尚それ以外の補助関係を削るというふうなことがござい
ましたのでこれを大急ぎで率を引上げた例もあるわけでござい
ます。本年度の市の財政といたしましては決論から申上げますとこれは
財政の収入の率でございまして、御承知願いたいて思っています。
三〇番小沢寛太郎君 課長さんの答弁了承します。かその中に自治庁から
云々ということがありうすが第三十三条の所得割の税額、所得額に
課するが所得税額に課するかと、いうことにはつきりしては自治庁から
再三赤十字市町村にあきましては所得税額ではなく所得額に課
した方がよろしいという通知があるように聞けてあります。この点
についてよろうか。

又、固定資産の方は上の趣旨に添い一方市民税の方はそれに及んでいるようであるが、その点については、

税務第一課長(里瀬芳雄君)　そういう点もございまして、たゞ総所得額に市民税を賦課することになりますと、大部細かい方まで生収義務者にならねどもあり、例えば、小所得の調査も税務署の資料も、報知者には支那者から、~~税~~つめ、その他は税務署の法人関係も調査します。か、総所得とする、税務署でその足を踏め、公開しないで、大部困る場合があり、ます。尚、額が相当数、市民税として、総額か上って来るので、いろいろ、率の問題とか、そういうものもあり、ます。

我々の口から申し上げることは、~~お~~あ、い、ま、人、が、小所得者の方、が、現在決まられて、いる、率、を、賦課、しますと、高く、市民税を、払、う、という、問題、が、起、こ、さ、れ、る、の、を、お、お、い、う、で、現、在、の、と、こ、ろ、各、市、共、申、合、せ、で、や、り、あ、り、ま、す、。、こ、う、い、う、の、事、態、で、す、か、ら、是、非、所、得、税、で、や、り、た、い、と、思、い、ま、す、。、是、非、お、お、い、た、い、と、思、い、ま、す、。

三番(小沢憲太郎君)　果下の市のや、こ、い、る、状、況、を、調、査、し、て、い、た、い、て、館山市は、も、つ、と、も、適、正、な、調、査、課、税、が、出、来、る、よ、う、に、今、后、研、究、し、て、い、た、い、く、こ、と、を、要、望、し、た、い、ま、す、。

二番(伊勢芳弘君)　又、今の固定資産税の問題につきま、て、第一課長

いわゆる農家等の生産的家屋と非生産的家屋との評価はこういう
基準をもつて評価したか。算定に当たったかというところが第一

それから今年度の予算の固定資産税の総額というものはどこから
掴んできたか。前年度にならうから相当の含み財産があると思
います。が例えは商店等の一つの収入を得ている農家の納屋とか
農家住宅というものは対する評価をするものの基準というものが
あると思ひます。がそのうちにはいろいろあると思ひます。

税務第一課長(黒瀬芳雄君) その基準をどこに置いたかというこ
とでございす。がこれにつきましては自治庁の固定資産評価の基準表
より全国的にやうなわけはなうないことになつております。
その点細部に決ります。甲乙がわかります。高市から印刷も
して上げたいと思ひます。

議長(石井潔君) 暫く休憩いたしうす。

再開したしうす。

午後一時 五十三分

午後二時 二一分

三田重忠(佐々君) ニテ一審議員の意向についてお尋ねいたしうす。
この土地家屋それから評価額と税率と
いわゆる地価税それから税額この三つに分けてお答え願ひたいと

思います。それから昨年度の同様のものをあ、懸いて、それから標準税率があるわけですから、その標準税率を合せてお、頼い、致し、ます。

税務第一課長(黒瀬芳雄君)課税標準額の評価を申上げます。

先ず三十三年度の家屋について申上げます。

総評価額が十億十六億三千六百六十二万七千円、それの前年度は百分の一、六で税額二千六百一十六万四千円、お、います。

標準税率は百分の一、四で、お、います。

就いて同じく家屋に三十三年度は一億八千七百一十四万四千円、お、いたので、お、います。が本年年度の税率は百分の一、五で、お、います。一、七で、お、います。つぎ、お、います。とは二千九百六十五万六千四百三十三万五千五百五十万の増で、お、います。次に、お、います。お、います。土地の総評価額は十億二千七百一十二万五千円、お、いたので、お、います。その税額は百分の一、六で三千八十三万四千円、お、います。一、七で、お、います。

それから三十三年度の土地の総評価額は十億五千八百三十三万八千円、お、いたので、お、います。がそれの百分の一、五で、お、います。一、七で、お、います。税額は二千九百三十三万三千四百三十三万四千円、お、いたので、お、います。一、七で、お、います。減で、お、います。

続いて三十一年度の消却資産は四億一千九百七十八万あり、たのでござい
ます。その百分の廿五が一、六で六百七十一万六千円の税額にございます。
三十一年度の消却資産は二億九千三百八十四万六千円であり、たので
ございます。が本年年度はその百分の一、五で税額は四百四十万七千円に
ございます。二百三十一万九千円の減でございます。

三四番(嶋豊江氏)市民税の同様のものがあまやせん。

税務第一課長(星瀬芳雄君)市民税につきましても、国定資産税
個人も法人も現在確定になつてあり、まんので本月の二十五日まで
申告することになつてありますので、今月中には確定な数字が
あつてあると思ひます。

一四番(飯田義男君)先程の三十一番議会の質問の答えが、あつたとい
思ひます。

税務第一課長(星瀬芳雄君)先程の三十一番議会の質問と御要望をい
ます。が、市民税に關して賦課方法の件でございます。が、現在事務担当
者としてできかねるりでございます。が、オパシヨンワン以外に課する
各市を十分調査致しまして、その結果、財政委員会等の御意見を
御聴いたしまして、研究いたしたいと存じます。ので、御了承願ひたいと
思ひます。

四番(飯田君)市長は只今の課長さんの答弁に対し、市長は同感に
あります。この点、答へさせていただきます。

市長(田村利男君)御意見の通りでございます。

(なるべく早く研究していただきたいと思っております。四番の声)

三番(望月暉永君)市民税につきましてお伺い致します。

館山市の財政が赤字なるが故に市民税を増額するようになさるが、
市の財政も赤字であり、市民一般も大旨赤字であります。市の為政
者としてどうかと思つたのであります。

大体にあきまうして予算が昨年より減じてあるながら市民税が
上がることは不可解であります。正に今後の滞り拍車をかけるんじや
ないかと懸念するものであります。

現行のまゝにして欲しいとかように考えてあります。

尚、昨午かと思ひ、たが市民税の原案が一、五のものを一、三に引下げ
まいに時自治庁の方から交付金とあるいは特別交付税にあって
必ず相当減額されるとおそれがあると、おいかあがあるのではあり
ます。が、即ち詰局一、三に修正決議したのであります。が、当局で
きぐされに、や、交付税がそのために下った、ということでは困つてあり
ます。人か、この税金も、もうしばらく研究の予定があるかと、

かように考えてありすがこれにつきまゝ市長からお答え願ひたいと思ひます。

市長(田村利男君)たゞく申上げました通り館山市といつては三千万に上る歳入があるのだからいふのがなるといふて一日も早く赤字解消をすることが現在の急務と存じますのでこの点に押して承蒙したいと思ひます。

二番(伊勢仙之助君)私はこの税法の三十四条の税率を百分の一・五の最底で押えていたといふことを考へてあります。

百分の一・六を取ることは勤務所得税納税者のみに過重な負担をかけて来に、勤務階級の税が高すぎるな人とか緩和してやりたいと政府にあきましても基礎控除を五万五千円にしたいのであります。このことは金々加味されてはいないのであります。

基礎控除が上になつて税を上げて取つてやれということでは政府で我々に取つてくれた恩やりが全然加味されてない、固定資産に於ては一割減、法人税はそのまゝにして市民税のめを上げるといふことは我々納得ゆゑないところであります。

政府にて基礎控除を引下げてくれたのでありますから市民税の最底線に下げて貰ひたいということが我々の考えであります。

この税率の引下げにつきましてはわざとバツ万であります。
オミヤ四糸電 百分の一・五に私は修正したいと考えております。

三番松平藤太郎君 又今市長さんから館山市の宿命的な三千万円の赤字

これも是非我々も一緒に頑張って克服しなけければならないことはわかり

ますか一月末の現在の滞納が五千百七十万ということは午前中のことであ

ります。百分の十三という市民税でこれだけ滞納がある

更に百分の丁五になることは滞納がこれ以上増えんとはほいあときぐ

するのであります。

滞納があたら強制執行するということとでようか

必ずしもそれをやたらにかういというものであります。やはり市民

感情事情というものは市を信頼してゆめなけければなりません。二

上、に最底の百分の丁五、私はそのようにしていただきたいと節に

お願いするものでございます。

他市の例もございまいようが一応館山市としては先程望月議員の

言われたように市民のふところも市のふところと同じように

赤字であるということであり、是非百分の丁五で抑えて

いたいただきたいと要望するものであります。

三四番嶋田北沢君 市民税の標準税率は百分の丁五であります。か

それから去年調定されまして市民税の総額はこの百分の十三と

のけ下もの取りにくくはなっているかよ尋ねます。

経済課長(税務第一課長(黒瀬芳雄君)説明書に数字が上げてある

つもりでございしますか所得税の税額は九千五百七十六万二千二百

と二二四でございします

それから三十九年度は標準税率がはく三十一年度が標準が出来る

議長(石井潔君)休憩いたします

午後二時四十七分

再開いたします

午後五時三十一分

議長(石井潔君)

議案第九号につきます。これは、臨時重部審議していただく

のでございしますか先程の協議会において申し上げた法律の
解釈等につきます。この点打合せをいたしまして再確認してその上で
当局から申上げることにいたします。

つきましては本議案は明日経済審議ということにいたしたいと思ひ
ますか御異議ございしますか。

異議なしの声。

議長(石井潔君)それではさよう決定いたします。

今日の会議はこれをもって散会いたします。明日二十四日午前十時再開
いたします。

席に午後五時三十九分。

